



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net



3月29日、昼食メニューは「オムライス」

第7回 通常総会を終えて

新しい年度を迎え、去る5月7日（土）、通常総会を終了いたしました。みなさまのご協力に感謝します。2005年2月にNPO法人となってから今回が第7回目の通常総会でした。3月11日の大震災、原発事故が原因となった物資輸送の停滞、計画停電など、日常からかけ離れた日々が続く中、総会の準備を進め、当日を迎えました。会は正会員数45名、出席正会員31名（うち表決委任者17名）と定足数を満たして成立し、前年度の事業報告・決算および本年度の事業計画・予算が満場一致で承認されました。

今年度の活動予算総額192万円の分類は以下のとおりです。■居場所の運営（107万円、スタッフの手当、図書費など）■学習内容の開発費（30万円、旅費、資料代、サイエンスカフェ）■インターネット事業（26万円、ホームページ管理スタッフの手当、業者委託料）■相談・情報提供や若者の居場所、自然体験など（12万円、勉強会、通信発行などに関わる経費）■管理費・予備費（17万円、事務局運営に関わる経費）。今年度も「不登校の子どもの居場所」運営のため、日光市からの補助金70万円が認められました。「居場所」をより充実した場所にするため工夫を重ねていきたいと思えます。ホームページの再構築、サイエンス・カフェの見直しは今年度の課題です。みなさまのご意見、ご協力により、よりよい「なんにわ」を作っていきたいと思えます。

理事会は奇数月第1土曜日、午後7時より、日光市民活動支援センターで開きます。次回のみ都合により、7月6日（水）午後7時からの予定です。会員の参加は自由です。どうぞ気軽においでください。（手塚）

総会で以下の理事および監事の重任が承認されました。よろしくお祈りします。

- 理事 金谷 真奈美
白井 佐智子
手塚 郁夫（理事長）
西尾 敬子（副理事長）
沼尾 忠宏
村上 幸子
吉成 啓子
吉成 勇一

監事 山本 佳子

任期 2011年7月～2013年6月

ヌミヤーンの「なんにわマンガ」は随時掲載です。カラーでご覧になりたい方はホームページを。

居場所のひとこま



目次

第7回 通常総会を終えて	1
お知らせ	2
活動日誌	3
川むしたんけん隊	3
こんな本はいかが？ (15)	4

茶話会・竹の子掘り

5月9日

今回は茶話会に関わっている、「まにまに工房」(地域活動支援センター)の熊谷さんの誘いで、同所が毎年参加している“竹の子掘り交流会”にみんなで同行させてもらいました。

初めて!! という方もいて、ニョキッと地面から頭を出している竹の子の根本に何度もくわを入れ、みんながんばって収穫していました。昔(?)農家の娘という方は、さすがにくわの使い方抜群です。

掘ったあとは、竹の子ご飯やサンショウみそがのった焼き竹の子などをご馳走になり、すがすがしい竹林の中での会話(やっぱり子どもたちのこと)もはずみました。(西尾)



■ イベントのお知らせ

発達障害セミナー

(栃木県発達障害者支援センター ふお一ゆう)

思春期を迎えた発達障害児への支援

— 青年期・成人期を迎える前に取り組むべき課題とは —

【講師】

社会福祉法人鶴風会 西多摩療育支援センター(東京都あきる野市) 発達障害支援部長 吉野 邦夫(よしの くにお) 氏(小児科医)

■ 日時 7月2日(土) 13時30分~16時00分(受付13時~)

■ 会場 栃木県総合教育センター(宇都宮市瓦谷町1070)

詳しくは以下のホームページをご覧ください。

<http://www.hattatsu.pref.tochigi.lg.jp/osirase.html>

元気up'K | ZUNAプロジェクト

~子どもの元気が日光の元気!~

主催: 社団法人 今市青年会議所

日時: 7月24日(日) 午前9時30分~午後3時

会場: 日光だいや川公園(雨天時: 小雨決行、大雨中止)

対象: 小学生を持つ親子または家族、地域の大人、

被災地より日光市に避難されているご家族

紙トンボ・プーメラン遊びのコーナーに参加予定です。

子育て・親育ちの茶話会

場所: 今市報徳振興会館

日時: 毎月第2月曜日(午前10時~お昼)

参加費: 300円(お茶代) 次回は7月11日(月)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで!」を合い言葉に。(090-3227-7079)

発達障がい支援者連絡会

発達障がいを持つ子の親、学校関係者、市民団体等が自由に意見交換を行い、今できることに取り組んでいく集まりです。毎月第4月曜日、午後7時から、日光市民活動支援センターで開いています。どなたでも参加自由の会。気軽にご参加ください。

(担当: 西尾・白井)

子育て・親育ち勉強会(第8回)

「ん? うちの子、ちょっと心配?」
と思ったら

講師 帷子顕二郎さん、山崎育さん

8月6日(土) 午後1時30分~3時30分

日光市今市中央公民館小ホール

(託児300円 定員40名)

今回は、講師お2人をお迎えしました。

幅広い年齢のお子さんを対象に、質問にお答えします。

全国科学教育研究集会 科学教育研究協議会 第58回 全国研究大会 栃木大会

期日: 2011年8月5日(金)・6日(土)・7日(日)

教師も子どもも夢中になる!

楽しくわかる理科授業

科学お楽しみ広場、記念講演、分科会、ナイターなど
興味津々の充実した企画いっぱいのイベント。

主催: 科学教育研究協議会/宇都宮大学

「なににわ」は「科学お楽しみ広場」等の企画に参加します。

詳しくはこちらのHPを → <http://f-web.net/minowa3/>

「なににわ」は
「霧箱で放射線を見よう!」という
企画で参加予定。

(通信19号をご覧ください)



サイエンス・カフェ 32 放射線って何だろう。

放射線についての基礎知識を身につけ、生活や行動に生かしましょう。 講師: 手塚郁夫(本会理事)

日時: 7月9日(土) 午後1時30分~3時

会場: 日光市民活動支援センター

☆ 活動日誌

- 2月27日 (日) ベリー会
 2月28日 (月) 発達障がい支援者連絡会 (第51回)
 3月1日 (火) 生チョコ作り (子どもの居場所)
 2月28日 (月) 通信・なんとなくのひろば 第23号発行
 3月5日 (土) 理事会 (第38回)
 3月14日 (月) 茶話会 (第21回)
 3月19日 (土) 臨時サイエンス・カフェ「福島原発の放射能を理解する」
 3月27日 (日) ベリー会
 3月29日 (火) 居場所昼食会 (つくって食べよう!)
 4月1日 (金) 2011年度「子どもの居場所」開始
 4月5日 (火) いちご大福作り (子どもの居場所)
 4月11日 (月) 茶話会 (第22回)
 4月17日 (日) ベリー会
 4月26日 (火) 居場所昼食会 (つくって食べよう!)
 5月3日 (火) 猪倉山泉福寺 八十八箇所まつり (バザー) に参加
 5月7日 (土) 理事会 (第39回) ・ 第7回 通常総会
 5月9日 (月) 茶話会・竹の子掘り (第23回)
 5月23日 (月) 発達障がい支援者連絡会 (第52回)
 5月24日 (火) 居場所昼食会 (つくって食べよう!)
 5月29日 (日) ベリー会
 6月4日 (土) サイエンス・カフェ 31 「川むしたんけん隊」
 講師: 塚崎庸子さん
 6月13日 (月) 茶話会 (第24回)
 6月14日 (火) お団子作り (子どもの居場所)
 6月18日 (土) ワカモノフェスタ実行委員会



5月24日 昼食会メニューは
チャーハンにサラダ、プリン

なんにわ
サイエンス・カフェ

川むしたんけん隊



今回の「川むしたんけん隊」は6月4日、明神駅そばの行川で実施しました。いつも天気が心配なこの時期の「川むし」。今年は天候に恵まれ、気温 22℃、水温 18℃絶好の川遊び日和でした。小中学生7名、大人13名が午前10時に集まりました。あいさつや参加者の自己紹介に始まり、塚崎さんのお話を聞いて、午後10時20分から川に入りました。はじめはおっかなびっくりの子どもたちも慣れるにしたがって大胆になり、予定の1時間をオーバーして、大人も子どもも川虫の採集に熱中しました。近くの水路でアカハライモリを見つけた子ども、川で泳ぐシマヘビと目が合ってしまった大人など、いろんなハプニングもありました。

午後11時40分頃から、集まった虫や魚などを分類し、塚崎さんから説明を聞きました。ヒラタカゲロウ、マダラカゲロウ、モンカゲロウなどのカゲロウ目、ヒゲナガカワトビケラ、ムナグロナガレトビケラなどのトビケラ目、オオヤマカワゲラなどのカワゲラ目の幼虫がたくさん見つかりました。オニヤンマやガガンボの幼虫もいました。昆虫以外に、ハヤ、フナ、ドジョウ、シマドジョウなどの魚たち、トウキョウダルマガエル、ニホンアマガエルなども見つかりました。カシカガエルの美しい声も聞こえていました。

昼食後も、子どもたちが川や水路でいろんな遊びを見つけ、楽しい時間が過ぎました。「今市の水を守る市民の会」(塚崎さん、隅さん、毛塚さん、須佐さん)には、会場の設営からあとかたづけまで、たいへんお世話になりました。ありがとうございました。(T)

どんな虫がいるのかな...





私たちの活動目的：

日光市およびその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して学習や自立の支援活動を行い、地域の人々が支える新たな学びの場を作り出すことを目的とします。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動

こんな本はいかが？ その15 こどもの絵本あれこれ

今回は、民話絵本を2冊とミヒヤエル・エンデの作品2冊を紹介します。

① 十二支のはじまり

岩崎 京子・文 二俣 英五郎・画 教育画劇

「むかし、ある年の暮れ、神さまは動物たちにおふれを出したんだと。「正月の朝、御殿にくるよう。来たものから十二番まで、順番に一年ずつ、その年の大将にする」
さあ、動物たちは大騒ぎ！！果たしてどんな展開になるのやら！！！」

② だんごどっこいしょ

大川 悦生・作 長谷川 知子・絵 ポプラ社

「ぐつ」っていう男の子が、いろんな失敗をしながらも、ばあちゃんの手伝いをするお話。「だんご」という名前を忘れないように、「だんご、だんご、だんご・・・」と繰り返していたけど、いつしか「どっこいしょ」に変わってしまった！！！」

③ ガスペルとぼうや

ミヒヤエル・エンデ・文 ロスビーター・クォードフリーク・絵

矢川 澄子・訳 ほるぷ出版

小さなぬいぐるみの人形、ガスペルは、坊やを笑わせるのが好きでした。でもある日、坊やはガスペルを窓の外に放り出してしまったのです……。
坊やとガスペルとおばあちゃん。それぞれの思いがじんわりと心にしみます。

④ モ モ “時間どろぼうとぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子のふしぎな物語” (小学校高学年向き)

ミヒヤエル・エンデ・作 大島 かおり・訳 岩波書店

時間に追われ人間本来の生き方を忘れていた現代人に、時間の真の意味を問うてくる作品です。「時間がない」「ひまがない」と連発してしまう現代人。「時間」とは、いったい何なのでしょう???

(白井)

会員について

正会員：45

賛助会員：18

団体会員：4

入会金はありません。

年会費(一口)：正会員3,000円

賛助会員 個人5,000円、団体10,000円



「なんにわ」活動の約3割は会費でまかなわれています。会員の継続をよろしく願います。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いします。

なんとなくのへや

5月発行の予定が1月遅れてしまいました。通信 24 号をお届けします■原子力発電所の事故によって大規模な放射能汚染がはじまり、今後の見込みがたたないまま3か月が過ぎました。空間線量、内部被ばくなど、聞きなれない単語が普段耳にする言葉になり、とりわけ、子どもたちへの影響について不安が広がっています■放射線の生物への影響については未知の部分が多く、十分な理解に至っていません。X線の発見やラジウムなど、放射線を出す物質(放射能)の発見から 100 年あまり。放射線はその作用が生物の体内に蓄積し、数十年という長い時間が経過した後に影響があらわれるという特徴を持ちます。しかもそのことに人が気付いたのは、原子爆弾や原子炉の研究が始まった6、70 年ほど前。人間は寿命の長い生物です。遺伝も含め、放射線の人間への影響を評価するには、まだまだ時間がかかるでしょう■広島・長崎、ビキニ環礁などの原子爆弾被害からデータを調べ上げた日本の研究者たちは「許容量」という概念を作り上げました。『有害さとひきかえに有利さを得るバランスを考えて、どこまで有害さをがまんするかの量が、許容量というものである。つまり許容量とは利益と不利益とのバランスをはかる社会的な概念である...』これは、武谷三男著「安全性の考え方」(岩波新書・1967 年)にある記述です■「許容量以下だから安全」という言い方は適切ではありません。「我慢量」と言い換えるべきという人もいます。放射性物質について基礎的な知識を知り、生活や行動に生かさなければならぬ時代が突然目の前に出現してしまいました。子どもを守るために、学び、考え、行動していくことが必要です。(T)